

夏の図書館を詠む



松尾芭蕉

蟬の聲

岩にしみ入

閑さや

●夏の名句



●本学の所蔵資料

【おくのほそ道：附曾良随日記】

松尾芭蕉著；杉浦正一郎校註（岩波書店）

請求番号：911.32||Ma86 本館書庫地下

“*Oku no hosomichi : or the poetical journey in old Japan*”

Matsuo, Bashō ; Isobe, Yaichirō (tr.) (San Kaku Sha)

請求番号：895.61||Ma85 分館書庫 3F

●俳句の説明

松尾芭蕉が元禄2年5月（現在の7月上旬）に山形市立石寺に参詣した際に詠んだ句です。

本学園の学生・教職員の方々から投句いただいた俳句。

雨あがり
閑いた頁に
光落つ
Genji

回って夏
会津偲んで
八重を読む
多聞

夏こがれ
青き空海
異邦人
日向雅

本読みの
涼はと問えば
書庫の中
多作一景

夏の朝
文読む君の
後れ髪
浮駒

雨の糸
思い暮らす
桜桃忌
遊亀

ささの葉に
手紙をつけて
姫ごころ
欽作

真夏因に
鞆の本も
バテにけり
多誤作

薫風に
揺れる活字は
夢うつつ
紫卯

汗ばむ日
母から届く
暑中見舞
猫

頓珍漢人俳壇